

YW 養成講習会、石巻で開催 京都では「若者学」公開研究会

若者をめぐる多くの社会問題や課題が山積の中、京都市ユースサービス協会では毎年、ユースワーカー養成講習会を実施していますが、今年は8月に宮城県石巻市で出張養成講習会を開きました。

8月30日に京都市中京青少年活動センターにおいて社会活動家でも知られる湯浅誠・法政大学教授のゲストスピーチを得て、ユースワーカー養成公開研究会を実施しました。

ユースワーカー養成講習会@石巻

東日本大震災から4年目。着実に復興に向けての動きが進みつつも、現地には様々な課題が存在しています。昨年、宮城県石巻市で中高生年代の若者に向けて、学習・居場所支援に取り組んでいるNPO法人TEDICと縁あって、ユースワーカーが一般的ではない東北地方における若者支援に関わる課題を聴く機会がありました。その課題をどのように乗り越えていくかをともに考えた結果、8月26、27日の2日間、TEDICスタッフ13名を対象にした「ユースワーカー養成講習会@石巻」に当協会から職員3名を講師として派遣しました。

プログラムは、ユースワークの概論に始まり、「ワーカーとしての自己理解」「グループワークの実際」等のテーマで、講義とワーク

シヨップを交えて実施。参加者は

「他者理解のために、まず自己理解」「思い込みに気づけた」「違いがあるからこそ、受け止めることが大事」「伝えたいことと、実際伝わっていることは違う」「同じものを共有することが大切」など、他者とのかわりにつながる多くの気づきを得られたようです。

今回は、スタッフ研修として実施されましたが、担当者とは今後の宮城県・石巻市におけるユースサービスについても話しており、今後の展開について、当協会にも考えていけたらと思います。
(子ども・若者支援室 チーフ 支援コーディネーター 竹久輝頭)

若者の仕事を巡る現実と、これからの働き方・生き方を考える
会・湯浅誠さんを招いて

若者の問題というけれど、個々の若者の問題だけ見ていけば良いのか？ 社会が変わるようにしな



湯浅誠教授

ければならないんじゃないだろうか？ そんなことを考えた時に、湯浅さんの書かれたコラムを見つめました。彼もそこで、まさに同じような考えをしていると感じて、お招きして話を伺うことにしました。

たくさんのお話をしていただきましたが、一つの柱は、新しい働き方の模索という話。「非正規化」が進むけれど、高度経済成長に戻ることができないし、ロボットでも出来る仕事はどんどん機械化されるという時代において、人間らしい仕事をしながらちゃんと生きていける仕組み作りをしましょう！ という提案をされました。一つの提案は、ソーシャルフロンティア、「誰かの役に立つ」という「ソーシャルな」領域に乗りだして働こう、ということ。そのほか、「何が「ちゃんとした仕事」か、なんて将来分らないんだか

ら、普遍的な力を身につけておこう！」とも話されました。

若者という切り口から、今の社会を見てみるとどうなるのか？ そうやって捉えられた社会イメージを基盤として、若者の生きやすい社会づくりを考えていこう、というのが「若者学（ユース・スタディーズ）」のねらいとところです。今回のプログラムでは、若者支援における大きな課題である「就労支援」の根本を考えることにつながったのでは？ と考えています。

ところで、右にある素敵な絵は、ファシリテーション・グラフィックという手法で、湯浅さんの話を同時通訳するかのようになっています。作者は京都教育大院生の石橋さん。絵を見るように湯浅さんのお話を読んでみてください。

(京都市ユースサービス協会

事業部長 水野篤夫)

